

第4学年 図画工作

第4学年の学習到達目標

- (1) 豊かな発想や創造的な技能などを働かせ、その体験を深めることに関心をもつとともに、進んで表現する態度を育てるようにする。
- (2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、つくりだす能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。
- (3) 自分たちの作品や身近にある作品、材料のよさや美しさなどに関心をもって見るとともに、それらに対する感覚を高めるようにする。

第4学年の主な学習内容

学期	単元名	学習のねらい	学習内容
前期	キラキラ光る絵	光を用いた造形活動に積極的に取り組む。 思いを広げながら、光の形や色を変えたりして、工夫する。	集めた材料を活用し、楽しんで絵に表す。 材料の特徴などから発想して絵に表す。 材料の形、色、材質感を生かして、効果的に画面構成をする。
	ざいりょう物語	材料から自分の思いを広げ、つくりたいものを考える。 作品を展示して鑑賞し、材料の生かし方やつくり方のよさについて話し合う。	身の回りにある材料の特徴を感じながら、生かしてつくる。 材料の特徴やつくりたいものに合わせて用具を選び、表し方を工夫する。
	絵の具のふしぎ	水の量や筆を加減することで現れた絵の具の変化を楽しむ。 絵の具の使い方を試しながら偶然見つけたことなどをもとに発想する。	絵の具と水でできる不思議な形や色の変化に関心を持つ。 にじんだ色の面白さや、重なり合った色の変化を生かして、想像したことを絵に表す。
	ひもでつくろう	休み時間の過ごし方を思い浮かべ、何をどんな材料や方法で表そうか考える。 それぞれの材料や方法を生かして、工夫しながら自分の思いを表す。	粘土のひもを丸めたり、のぼしたり、つけたりして変化を楽しむ。 筒方の土台をさまざまな技法で変化させ、できた形から想像を広げて作品にする。
	コロコロコロガラート	迷路の仕組みやつくり方の基本を理解し、楽しく遊べる仕組みを工夫してつくる。 友だちと作品を交換したりして遊び、作品の特徴や工夫した点を確認め合ったりする。	ビー玉が転がり落ちる仕組みを理解し、どのようにしたら楽しい転がり方をするかを考え、工夫してつくる。 作品を交換したりして遊び、作品の特徴や工夫した点を確認め合う。
	きょうかしよびじゅつかん	場所や建物の特徴の面白さを話したり、友だちの発表に共感したりする。 自分なりに想像をふくらませて、場所や建物を材料や表現方法を考えて表す。	身の回りのわくわくする場所や建物を見つめる。 想像をふくらませたり、楽しく遊べたりする場所や環境の特徴を互いに紹介して、そのよさを味わう。
	わすれられない日	どの場面をかくかを選び、自分の思いが表れるように人やものの位置、まわりとの色の組み合わせなどを工夫して表す。 絵を見せ合いながら、その思い出や忘れられない日について話し合う。	印象深い思い出の場面を選びながら絵に表す。 内容が良く表れるように、人ともものやまわりの様子など、形や色を工夫して表す。
後期	お話の世界～ねん土でつくる～	楽しいお話ができるように、粘土でつくった穴から想像を広げてつくることを知る。 楽しいお話にするために、いろいろな材料や用具を選んでつくったりする。	穴からどんなお話が始まるのか自由に想像し、立体に表す。 作品をつくりながら、用具を試したり、組み合わせを考えて表す。
	お話の世界～絵にかく～	自分でお話をつくりながら、紙にあげた穴などから絵に表したい場面を見つめる。 場面の様子がよく表れるように絵を貼ったり画用紙を開くようにしたりして、お話が楽しく広がるように工夫する。	画用紙の一部を開くとお話が展開する物語やお話の絵をつくりだして楽しむ。 絵のどこの部分を開くと楽しい物語やお話の絵になるかなど表し方を工夫して表現する。

ワンダーランドへようこそ	場所に合った扉や、扉の向こうに見えるイメージを想像する。材料や方法を選び、自分らしい表し方で表す。	壁や地面など、場所の特徴を生かしながら、工夫してかいたりつくったりする。
ぬのから生まれた	いろいろな布を集め、それぞれの素材の特徴の違いに気づいたり感じたりする。それぞれの布から思いついた活動を楽しみながら、つくりたいものを思いつく。	布などの材料に親しみながら、つくりたいものを、思いつく。思いついたことをもとに、材料のよさを生かしたつくり方を工夫して表す。
木から生まれら世界	丸刀を中心に彫り方を工夫して表す。版づくり、刷り、かき加えの段階で友だちと見せ合い工夫した点を知らせ合う。	彫刻刀を使って、彫ったり、刷ったりする活動を楽しむ。感じたことや体験したことなどを工夫しながら、木版で表す。
へん身パッ!	自分がどんなものに変身したいかを考えたり、光の効果を考えたりする。透明シートなどに、変身したいものや様子を表す。	身近な材料を使い変身する楽しさを味わう。変身したいものをいろいろ想像し、表し方を工夫する。

評価の観点・方法

<p>(1) 評価の観点 それぞれ学習を進める中や学習後に評価します。</p> <p>【造形への関心・意欲・態度】 自分の思いを表す体験を深めることに関心をもつことやつくったものなどに関心をもって見るなど、進んで造形表現活動を楽しみ、その喜びを味わおうとしている。</p> <p>【発想や構想の能力】 見たことや感じたことなどをもとに想像力を働かせ、豊かな発想をしたり、つくりたいものの美しさや用途を考えるなど構想したりしている。</p> <p>【創造的な技能】 手を十分に働かせたり、体全体の感覚を生かしたりしながら、つくりだす能力などを働かせて、自分なりの技能や表し方を工夫する。</p> <p>【鑑賞の能力】 自分たちの作品や身近にある作品などのよさや美しさ、感じの違いなどに関心をもって見ている。</p>	<p>(2) 評価の方法 造形活動への関心・意欲・態度の重視 これまで、造形活動における技術的なものを主に評価してきました。これからは、それ以上に、授業を含めたあらゆる場面や制作の過程で、児童一人一人の思いや意図、表現の試みなどを重視して評価します。</p> <p>完成した作品を評価するだけでなく、制作開始や構想段階での積極的な取り組み、構想段階での発想・アイデア、制作途中や完成時の構想の生かし方、構想を確実に生かす技能などいろいろな面から評価していきます。</p> <p>作品の提出状況、必要な道具の持参など、造形活動へ積極的に取り組む姿勢も大切な評価内容です。</p> <p>完成した作品の、相互評価、自己評価も、鑑賞の能力として評価していきます。また、鑑賞後の自分の作品への生かし方も大切な評価となります。</p>
--	--

特色ある学習方法

<p>(1) 実際の制作活動の中で、4年生の発達段階に応じた用具や材料の取り扱いを身に付けていきます。</p> <p>(2) 造形活動を「楽しむ」ことを大切に、自分の身近なものに対する美しさやすばらしさに気づく態度を養っていきます。また、「楽しむ」ことによって、生活の中での造形活動や表現活動へとつなげていきます。</p> <p>(3) 制作を効果的に進めるために、学習環境を整えるなど事故防止に十分留意しています。</p>
--

使用教材等

<p>教科書 「図画工作3・4下」(日本文教出版) 教材や教具 絵の具, ねん土, 彫刻刀, サインペン, カッターナイフ, 金づちなどの工具, 紙, 布, 木などの材料など その他, 必要に応じて市販の材料, 教材等を購入して使うことがあります。</p>
--

留意事項

<p>(1) 彫刻刀, カッターナイフなど危険な道具を使う機会が増えるので, 安全には特に配慮をして指導していきます。</p> <p>(2) いろいろな造形活動に取り組むには, いろいろな材料が必要となります。身近にある材料などの収集をお願いすることがあると思います。ご協力をお願いします。</p>
